

ゾーン30 増殖中!

歩行者を見たらスピードダウン よろしくね



● 撮影/清水 (20140114) 【田原町商店街】

☆☆活動報告☆☆

12月26日 ROBA12月例会・理事会
1月15日 ROBA1月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

2月1日(土)～27日(木) NPOパネル展
(会場) 2月1日(土)～6日(木) AOSSA 1F
7日(金)～14日(金) 市役所本館 1F
15日(土)～27日(木)
福井市まちづくりセンター「ふく+」(ふくたす)
2月19日(水) ROBA 2月例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

東リニアが日本を改造する本当の理由

市川宏雄メディアファクトリー 840円+税

現在のリニア中央新幹線の計画状況、想定されるルート、駅の負担方法、駅間の所要時間など、ざっくりとまとまっているし、東京から名古屋まで40分で行けたらどんないいことがあるかなど、ビジネスマンの生活という切り口から夢が描かれているリニアの入門書。(ただし、技術的な詳細は書かれていないので、それを期待する人は他の本を買った方がいい)

ただ、この本の内容は、これまでの経済体制の中で想定できる影響を集めたにすぎず、家田先生は、リニア基本計画の記者発表のとき、このようなビッグプロジェクトは需要予測が当たらないのが通例とおっしゃっている。

2027年に開通しても、構造的な変化はなお20年ほどを通してジワジワ効いてくる。15年前に、スマホ・インターネットの現在の状況を誰が想像できたであろうか。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

「第1回終着駅サミット in 城端」に参加して

内田佳次

平成25年11月30日富山県南砺市城端にて終着駅サミットが開催されました。このサミットは南砺市が実行委員会を形成して行政主導で開催されました。



北陸新幹線金沢駅まで開業が目前に迫り、金沢と富山に挟まれた地域においては二次公共交通の利用を伴う都市における共通の課題があります。ともすれば埋没してしまう懸念があるなか、地方鉄道の終着駅という共通点で、地域公共交通の活性化、まちづくり、観光振興といった課題を話し合おうとする会議です。

内容は和歌山電鉄専務取締役磯野省吾氏の講演、鉄道アーティスト小倉沙耶氏の講演、そして講演者2名に加えて本川祐治郎氷見市長、田中幹夫南砺市長が加わった4名でのパネルディスカッションが行われました。

とにかく二人の市長は元気いっぱいでした。特に本川（ほんがわ）氷見市長は平成25年4月に当選したばかりの新人市長ということもありやる気、元気があり聞いていて清々しく感じました。終着駅にかかわらずローカル線沿線の地方都市の活性化は喫緊の課題です。これを契機に活性化が進むといいですね。

なんでも福井鉄道の終着駅（始発駅）である越前市に声掛けをしたところ「始発駅」にこだわって参加を辞退されたそうです。福井からは岡田大野市長が参加され会場の席で紹介されました。なお、私はその日世界遺産の五箇山の民宿に泊まり余韻に浸っていました。

ROBAからの参加は清水さん、善光さん、松原さん、内田の4人です。



(城端線の車両)

(パネルディスカッション)



(南砺市長と氷見市長のエールの交換)



福井市市民協働推進委員会に参画しています。

(報告 はたみゆき)

福井市では小学校単位のまちづくり（市民参加・運動会型）が平成 6 年から始まっており、「すべての市民がそれぞれに役割を担い、一人ひとりが参加できる市政を展開すること」を前提に進められています。一方、運動会型（小学校単位）のまちづくりから遅れる事 4 年、平成 16 年 4 月に市民協働条例が施行され、同時に市民協働推進委員会が設置されました。（⇒条例化にむけて平成 14 年度から検討されていました。また NPO 法は平成 10 年 12 月の施行となっています）

運動会型のまちづくりは、主に公民館単位の地域のまちづくりを行う事業ですが、市民協働のまちづくりは、公益的活動を行う市民活動団体や NPO 団体が行う事業が中心になります。市民協働のまちづくりは全国の自治体で取組まれています。NPO 法が施行された当時と比べると、様々な局面で淘汰された部分もあり、また自治体ごとに協働事業のあり方や支援のあり方に、それぞれ特色があります。

さて、福井市市民協働推進委員会に関してですが、この委員会では主に「市民活動基金による助成金に関する審議・審査」、「市民活動団体と市の協働事業であるミーティングテーブル事業への助言」、「その他市民協働に関する調査・研究」が委員会の役割となっています。私はこの委員会に平成 20 年度から参画しており、福井市内の様々な団体さんの助成事業を見てきました。委員会で特に気を付けているのは、委員会の審議・審査が重大な決定権を持っているため、個人的視点でなく客観的視点で公平に審査することです。社会情勢やニーズ、団体の特性等をよく理解し、提案された事業が広範囲に渡って公益が及ぶのかが重要な視点になってきます。委員会は 2 年任期のため今年度で一区切りになりますが、継続して委員への参画要請があれば、今後の市民協働に向けて提案を行って行きたいと思えます。

《市民活動基金助成事業（平成 16 年度～）》

福井市内に事務所等がある NPO 法人、地域活動団体、ボランティア団体などが行う公益的的事业に対して、「ふくい市民活動基金」を財源として事業費の一部を助成する事業です。「申請書提出→公開プレゼンテーション発表→事業の実施→実績報告書提出→成果発表」という流れになります。委員会では交付団体の決定や交付額の審議・審査を行います。ROBA は H16・H17：のりのりマップ製作、H20・H22：カーフリーデーに対して助成を受けました。



↑プレゼン・成果発表会のイメージ

《ミーティングテーブル事業（平成 17 年度～）》

市が取り組む委託事業として、市民との協働によってより効果が高まる企画案を募集し、担当所属と企画提案者が対等に意見交換する「ミーティング」の場を設け、企画内容が担当課の考える内容と合致できれば市長プレゼンに臨み、関係部署や市長の OK が出れば事業採択となります。委員会としては企画書が提出された段階で書類内容への助言と、ミーティングに同席し助言を行います。



↑ROBA と担当部署のミーティング



↑市長プレゼンのイメージ

ROBA は H18 年に「中心市街地のちよい輪事業」を提案するも採択にならず、その代わりにマップ購入による協働事業を行いました。

また、H22 は「モビリティマネジメント事業」が採択され、福鉄 2 駅の MM や送りだしイベントを実施しました。

